

ウィットゲンシュタイン『心理学の哲学に関する講義 1946-47』について

ウィットゲンシュタイン『心理学の哲学に関する講義 1946-47』について 講義記録間の対応関係、および遺稿との時間的連関

菅崎 香乃

『心理学の哲学に関する講義 1946-47』（*Wittgenstein's Lectures on Philosophical Psychology 1946-47*, 以下『講義 1946-47』と略記）は、1946 年 10 月から翌 47 年 5 月まで¹、ケンブリッジで開講された講義の記録である。『哲学探究』（以下『探究』と略記）第 I 部の完成後、およそ 46 年の初夏に入るより少し前のころから、ウィットゲンシュタインは、いわゆる「心理学の哲学」にとりかかっている²。それから半年ほど経った時期に開講されたのが、この講義ということになる。これがかれにとって大学での最後の講義となった。邦訳は 2017 年現在、刊行されていない³。

この講義録は、三名の学生（P.T. Geach, K.J. Shah, A.C. Jackson）が、それぞれに記録したノートを併せて出版されたものである。その特徴は、特別な編集や統合は施されず、三名の記録がそのまま順に並べられていることにある。ウィットゲンシュタインの言葉を直に書きとった記録には臨場感があり、また出席者に与えた影響をうかがい知ることができる点も興味深い。しかしながら、一人分の記録を冒頭から読むだけでは、講義の内容に判然としない部分が残るのも事実である。発言をメモしながら⁴、議論にも参加するのだから、十分な記録が困難であることは想像に難くない。しかも、当時はまだ『探究』が公刊されておらず、いわゆる後期のウィットゲンシュタインがどのような問題に取り組んでいたのかについて、広く知られているわけではなかった⁵。そのような状況で、講義の要点を完璧に再現せよと言う方が、無理な要求であろう。

そういった事情もあり、この講義でウィットゲンシュタインが何を話していたのかを理解するためには、冒頭から三名の記録を順に読んでいくのは、得策とは言えない。むしろ、同じ話題について記録した箇所を交互にみながら、落とされた論点がないか、表現のちがいはあるのかといったことを逐一確認していくことが有益だと思われる。このような読書法を実現するために、三つの記録の対応関係を一覧にした表を以下に提示する。

表の左半分が、講義記録間の対応関係を示している。三名のうち Shah だけが日付を記録しており、これを基準として、内容において対応する箇所を他二名についても同日

とした。ただし、*などによって、より明確な区切りが近くにある場合には、そちらを優先した箇所もある。

また、ウィトゲンシュタインが日々の思考を書きつけることを習慣にしていたことはよく知られているが、この講義と同時期にもかかれは日付入りのノートを残している（MS132 終盤～MS134 前半）。そして、この手稿と出席者による講義録とをつきあわせてみると、内容がリンクしていることがわかる⁶。要するに、この時期の手稿を、ウィトゲンシュタイン自身による講義メモとして読むことができるのである。そこで、表の中央に手稿の頁番号を日付順に掲載した。

なお、これらの手稿からは、現在出版されている書籍への載録がある。すなわち、『心理学の哲学 1』（1947 年秋にウィトゲンシュタイン自身が作成したタイプ原稿 TS229）、および『反哲学的断章』（死後、von Wright によって編纂）である。内容から手稿との対応箇所を特定し、これも同表の右端に示している。

最後に、この表を活用した読書法の例をひとつ挙げておきたい。

講義の開始から 2 か月近くが経ったころ、ウィトゲンシュタインは、これまでの講義で自分が何をを目指していたのかを振り返っている（Shah の日付によれば、1946 年 12 月 2 日）。この講義の冒頭を、三名の記録で確認してみたい。

明らかに虚構である部族の例「こころのない部族を奴隷にするという例⁷」を考察することの眼目は何なのかと、君たちは尋ねるかもしれない。そのポイントとは、われわれが現実の現象を虚構の現象と比較するようになるということ、そしてそれらの現象を通常とは異なる仕方理解するようになるということである。たとえば、考えるということ、を、「内側で」「隠された場所のなかで」起こる何事かと比較する必要がある、われわれにはもはやなくなるのだ。

（Geach の記録 WLPP p.43. [] は引用者による補足、以下同様）

問題は、「考えるとは何か」という言い方でわれわれがはじめた問い⁸に、われわれはどのように応答したのかということである。わたしは、君たちのものの見方を変えようとしたのだ。それをこのように見よ。最終的にわれわれは、こころのない部族を考察した。これは完全な虚構である。何のためにそのような考察をしたのか。時間の無駄だ。われわれがしたことによって、ひとは何ができるようになるのか。こうだ。虚構ではない〔現実の〕ケースを見るやり方を変えることができるのである。ある〔種の〕現象を、われわれはある〔種の〕ことと比較しが

ちである。わたしはそれを別のことと比較するよう求めているのである。〔考えるという〕現象を〔内側で〕起こる何事かでもって分類するのをやめるならば、その問いは消えてなくなる。

(Shah の記録 WLPP p.168. 傍点は Shah による強調)

わたしが試みてきたのは、ものの見方を変えることである。どんなことでも、以下のような形式を備えている。すなわち、「それをこのように見よ」「それをこれと比較し、あれと比較してはならない」。その〔考えるという〕現象を、内側で起こり、われわれから隠されている現象と比較することをやめれば、「考えるとは何か」という問いは、消えてなくなる。

(Jackson の記録 WLPP p.285)

ウィットゲンシュタインの哲学的な方法論が比較的わかりやすく述べられているという点で、これらは興味深い記録である。Malcolm も、ウィットゲンシュタインが自身の哲学的な手順について講義で語ったと回想しており、それによれば、自分がしているのは「〔概念を〕見る別のやり方 (other ways of looking at it [a concept])」を示唆したり、つくりだしたりすることだと、かれは語ったという⁹。おそらく、これも同じ日の講義であろう。

三つを比較すると、Geach の記録は簡潔で、その要点がもっともわかりやすい。しかし一方で、かれの記録には、他の二名が記録している「ものの見方 (point of view)」というポイントが落ちてしまっている。それに比べると、Shah の記録は分量も多く、ウィットゲンシュタインの言葉をそのまま起こしたような印象だが、ところどころ前後とのつながりがよくわからない箇所がある。たとえば最後の行は、そのまま訳せば、「現象を起こる何事かでもって分類することをやめれば、……」となる。ここからだけでは、「現象」や「起こる何事か」が何を指すのかが判然としない。しかし、他の二名の記録をみると、これらが「考える」という現象、「内側で」起こる何事かなのだと補足ができるのである。そして Jackson は、虚構の例をもちだして現実と比較することの意義について、ここでは記していない。

三者のちがいは、それぞれの関心を反映したものであろうが、講義の意図を汲みとるという観点からすれば、これらの記録は一長一短と言わざるをえない。三つの記録を総合することで、それぞれの不足を補うことが可能になるのである。

さらに、これに加えて手稿を確認すれば、理解はより進むであろう。この12月2日の講義の前後で、ウィトゲンシュタインも哲学の方法論について述べている。

哲学における言語の探究とは、そのときどきの目的のためだけ (ad hoc) にでもつくった概念の助けによって、概念を記述し、比較することである。

(MS133 p.9v, 1946.10.27)

われわれが試みているのは、物事を新しい、普通ではないやり方で描きだすことである。とは言えそれは、古いやり方が正しくないからではなく、古いやり方となりに新しいやり方を並べることで、古いやり方が新たな光に照らされ、哲学的な問題が取り除かれるからである。

(MS133 p.70r, 1947.2.12-26 のあいだ)

これらの記載をみると、講義とよく似た内容が述べられているのがわかる。そして、かれがとくに重視していたのが、新たな概念や描き方をつくりだし、それと通常の描き方とを比較することだということもみてとられるのである。

以上のように、『講義 1946-47』において、とくにウィトゲンシュタインの意図を読みとるためには、三つの記録を相互に参照すること、遺稿との関係を確認することが有益だと思われる。

注

- ¹ 講義の日付は、以下すべて、Shah の記録による (WLPP pp.119-232)。
- ² 『探究』第Ⅰ部の完成以降、第Ⅱ部までの考察を、本研究ノートでは「心理学の哲学」と捉えている。現在出版されている『探究』第Ⅰ部の最終版が完成したのは、1945年から46年の学期中とされる (von Wright(1982), p.133)。これ以降、手稿において最初に日付が確認されるのは、1946年5月26日 (MS130, p.147) であり、このあたりから「心理学の哲学」の考察が本格化していったものと推測される。ただし、それ以前の思考も『心理学の哲学Ⅰ』や『探究』第Ⅱ部への載録があることから、5月末より前に、「心理学の哲学」へ移行していたと考えられる。
- ³ 本研究ノート作成にあたって、ウィトゲンシュタイン研究会での『講義 1946-47』の輪読会が助けになった。とくに、荒畑靖宏氏による Shah の記録の邦訳を参考にさせていただいた。
- ⁴ Jackson は講義後に思い出しながら記録したとされる。cf. WLPP publisher's preface, p.viii.
- ⁵ 『探究』第Ⅰ部の原稿は、この講義にも出席者していた Malcolm には読まれていた。cf. Malcolm(1958), pp.50-51.
- ⁶ およそ10月19日の手稿から、講義と内容が一致しはじめる。
- ⁷ 二回ほど前の講義 (11月25日) からこの話題をとりあげている (WLPP pp.39, 160, 280)。
- ⁸ 講義の最初に挙げられた問いが、この「考えるとは何か」である (WLPP pp. 3, 119, 236)。
- ⁹ Malcolm(1958) p.50.

『講義1946-47』講義記録間の対応関係、および遺稿との時間的連関

講義				手稿			手稿からの載録	
日付	Geach	Shah	Jackson	日付 ^{※1}	No.	ページ	RPP1	CV(英訳/邦訳)
10.11	3a-f ^{※2}	119-120	235-237 *	10.11	132	167-174	520-527	61/151-152
				10.12		174-179	528-533	
				10.13		179-187	534-543	
10.14	3g-4i	120-122	237 *-240b	10.14		187-188	544	
				10.15		188-190	545, 546	
				10.16-		190-191	547	61/152
10.18	4j-7 *	122-124	240c-243c	10.18		191-192		61/152
				10.19		192-198	548-554a	61/152-153
				10.20		198-203	554b-558	61/153
10.21	7 *-10d	125-127	243d-247b	10.21		203-212	559-572a	61-62/153-154 ^{※3}
				10.22	133	1v	572b, c	
				10.23		1v-4r	573-575	62/154-155 ^{※4}
				10.24		4r-7r	576-586	62/155
10.25	10e-12t	127-129	247c-249f	10.25		7r-8r		
				10.26		8r-9r		
				10.27		9r-v		
10.28	12u-14	129-132	249g-252 *	10.28		9v-10r		
				10.29		10r-v	587	62/155-156
				10.30		10v-11v	588-590	
				10.31		11v-13r	591, 592	62-63/156
11.1	15-17l	132-135	252 *-257 *	11.1		13r-16r	593-600	63/156-157 ^{※5}
				11.2		16r-17r	601, 602	
				11.3		17r-21r	603-613	
11.4	17m-22a	135-139	257 *-261 *	11.4		21r-24r	614-621	
				11.5		24r-25v	622-624	
				11.6		25v-27v	625-628	
				11.7		27v-30r	629-632	
11.8	22b-25d	139-142	261 *-265a	11.8		30r-v	633	
				11.9		30v-32r	634-638	
				11.10		32r-34r	639-643	
11.11	25e-28i	142-146	265b-268 *	11.11		34r-35r	644, 645	
				11.12		35r-v	646	63/157-158
				11.13		35v	647	
				11.14		35v-36r	648	
11.15	28j-31i	146-150	268 *-273b	11.15		36r-37v	649-651	
				11.16		37v-39r	652-654	
				11.17		39r-41r	655-659	

講義				手稿			手稿からの載録	
日付	Geach	Shah	Jackson	日付	No.	ページ	RPP1	CV(英訳/邦訳)
11.18	31j-34e	150-155	273c-276*	11.18	133	41r		
				11.19		41r-v		
				11.20-		41v		
11.22	34f-38a	155-159	276*-280g	11.22		41v		
				11.23-		41v-42r		63-64/158 ^{※6}
11.25	38b-41f	159-165	280h-283h					
				11.26		43r	660	
				11.27-		43r-44r	661	
11.29	41g-43b	165-168	283i-285*					
				12.1-		44r-45v	662-665	
12.2	43c-45*	168-172	285*-289*1			45v	666	
※7	45*-47		289*1-*3	12.4-		46r		64/158-159
				1.7-		46r		
				1.10				
				1.11-				
1.17	48-49h	172-175	289-291b		134	46r-67v	667-710	64/159 ^{※8}
1.20	49i-52e	175-178	291c-293*					
1.25	52f-55c	178-180	293*-294*					
1.31	55d-60c	181-184	294*-298b					
2.3	60d-63c	184-188	298c-301a					
2.7	63d-65c	188-191	301c-302*					
2.10	65d-67c	191-194	303a-305*					
				2.12-				
2.14	67d-69l	194-197	305*-306e ^{※9}			67v-95r	711-798	
2.17	69m-72b	198-201	306e-308*					
2.21	72c-75c	201-205	308*-310*					
2.24	75d-77h	205-208	310*-312*					
				2.27		95r-96r	799-801	64/159
2.28	77i-80b	209-210	312*-313d	2.28		96r	802, 803	
					134	1	803	
				3.1		2-5		
				3.2-		5-10	804-807	64/159 ^{※10}
				3.4		10-13	808-811	
				3.5		13-24	812-822	64/160
				3.6		24-25	823	
3.7	80c-82c	210-213	313e-315a	3.7-		25		
				3.9		26	824	

講義				手稿			手稿からの載録	
日付	Geach	Shah	Jackson	日付	No.	ページ	RPP1	CV(英訳/邦訳)
3.10	82d-84i	213-216	315b-316＊	3.10-	134	27		64-65/160-161※5
※11	84j-87k		316＊-317f	3.15-		27-36	825-831	
				3.17		36-39	832, 833	
				3.18		39-43	834-837	
				3.19		43-50	838-847	
				3.20		50-56	848-861	
				3.21-		56-63	862-872	
				3.24		63-66	873, 874	
				3.25		66-72	875-881	
				3.26		72		
				3.27		72-73	882	
				3.28		73-77	883-887	65/161
				3.29		77	888	
				3.30-		78-80	889-892	65/161-162
				4.1	81-83	893, 894		
4.2	87l-90d	216-219	317g-320＊2	4.2	83-91	895-897	65-66/162	
				4.3	91-99	898-905	66/162-163	
				4.4	99-105	906-909	66/163-164	
				4.5	105-113	910-914	66-67/164-166	
				4.6	113-115	915-917		
				4.7	115-121	918-920	67/166	
				4.8	121-127	921-923	67/166	
				4.9	127-131	924	68/167-169	
				4.10	131-134	925-929	68-69/169	
				4.11	134-140	930-938		
				4.12	140	939		
				4.13	140-143	940, 941	69/169-170,	
				4.14-	143-148	942	69-71/170-174※5	
				4.21	148	943		
				4.22	149-151	944-947		
				4.23	151-152			
				4.24	152			
				4.25-	152-153	948		
				4.27	153-155	949, 950		
4.28	90e-92b	219-221	320＊2-323＊	4.28-		155-156		
5.2	92c-94n	222-224	323＊-326＊					
5.6	94o-97a	224-226	326＊-327a					
※12	97b-j		327b-328a					

講義				手稿			手稿からの載録	
日付	Geach	Shah	Jackson	日付	No.	ページ	RPP1	CV(英訳/邦訳)
5.9or13	97k-100a	226-229	328b-329c	5.10	134	156	951	
				5.11-				
5.16	100b-103e	229-232	329d-333 *			156-168	952-963	71/174
※14	103d-116		333 *-348					71/175 ^{※13}
				6.27		168		

- ※1 次の日付が記入されるまで日数が開いている場合、冒頭の記載以外は日付の確定が困難である。このことを示すため、該当する場合には、日付の後にハイフンを記入している（例：10.16-）
- ※2 小文字アルファベットは段落を示す。なお、*で区切られる場合には段落の指示は省略した。*の後ろの数字は、同一頁に*が複数ある場合に、それがいくつめのものかを示している。また、Shahの記録は日付が明示されているため、段落の指示は省略した。Jacksonも1947年の初回を明示しており、この箇所については同様に省略した。
- ※3 CVでは、10月22日とされている。
- ※4 CVとは頁の表記法が異なっている。本稿はNachlassにしたがっている。
- ※5 CVでは、複数日分をひとまとめにしている。
- ※6 CVでは、11月24日とされている。
- ※7 Geachは、質問への応答として数頁にわたり記録しているが、Shahの記録には対応する部分がなく、12月2日の講義内での出来事なのかははっきりしない。Jacksonは、1頁足らずと短いものの、記録を残している。
- ※8 CVでは、1月19日とされている。
- ※9 他二名の記録と対応させると、段落e の中程に日付の区切りがあると推測される。
- ※10 CVでは、3月3日とされている。
- ※11 Shahが、一度講義を欠席したとされ、日付が確定されない。
- ※12 Geachは、個人的会話として記録している。Shahは、記録していない。
- ※13 CVでは、5月11日とされている。
- ※14 他二名と比較すると、Shahの記録には最後の数回分がないようである。

参照文献

ウィトゲンシュタインのテキストからの引用は、以下の略号を用い、節番号あるいはページ番号を示した。なお、遺稿に関しては *Wittgenstein's Nachlass: The Bergen Electronic Edition*, Oxford University Press, 2000. (Normalized transcription) を用いた。言及に当たっては、von Wright による目録番号を付し、ページ番号を示した。

- CV 『反哲学的断章』: *Culture and Value*, Revised Edition, ed. by G.H von Wright, Basil Blackwell, 1998. (丘沢静也 訳『反哲学的断章—文化と価値』, 青土社, 1999.)
- PI 『探究』: *Philosophical Investigations*, Revised 4th ed., ed. by P.M.S. Hacker and Joachim Schulte, Wiley-Blackwell, 2009. (藤本隆志 訳『哲学探究』, ウィトゲンシュタイン全集 第8巻, 大修館書店, 1976., 黒崎宏 訳・解説『『哲学探究』読解』産業図書, 1997., 丘沢静也 訳『哲学探究』岩波書店, 2013.) (第II部は、Blackwell 第4版で「心理学の哲学——フラグメント」とされているが、本稿では、慣例に従って『探究』第II部で通した。)
- RPP1 『心理学の哲学1』: *Remarks on the Philosophy of Psychology*, vol.1, ed. by G.E.M. Anscombe and G.H. von Wright, Basil Blackwell, 1980. (佐藤徹郎 訳『心理学の哲学』1, ウィトゲンシュタイン全集 補巻1, 大修館書店, 1985.)

ウィットゲンシュタイン『心理学の哲学に関する講義 1946-47』について

WLPP『講義 1946-47』 : *Wittgenstein's Lectures on Philosophical Psychology 1946-47, noted by P.T. Geach, K.J. Shah, A.C. Jackson*, ed. by P.T. Geach, University Chicago Press, 1989.

その他

Malcolm, Norman(1958): *Ludwig Wittgenstein, A Memoir by Norman Malcolm, with a Biographical Sketch by G. H. von Wright*, Oxford University Press. (板坂元 訳『ウィットゲンシュタイン——天才哲学者の思い出』, 平凡社, 1998.)

von Wright, G.H(1982): *Wittgenstein*, Basil Blackwell.

(すがさき・よしの 筑波大学大学院人文社会科学研究科在学)